

環境研究会関係各位

## 11 月度環境研究会例会・研究会

近畿本部環境研究会代表幹事 安カ川 常孝  
共催 公益社団法人日本技術士会 近畿本部

10月18日のシンポジウム『関西での電力安定供給のイノベーションを目指して』では5人の技術士の発表と意見交換をしました。「夢州での1000万kWのLNGガスタービンコンバインドサイクル発電所建設計画」のねらい、計画の内容、今後の展開などについて理解され、肯定的な意見が多く出されました。今後、環境研究会として、実現に向けて新しいイノベーションを興す取組みを進めます。

11月度は、10月のシンポジウムの概要・その後の経過等の報告とともに、討論の場を設けます。今後の実施体制やスケジュール等について意見交換をお願いいたします。

発電計画は「専門性があり、独立した第三者」として、技術士の総合力を発揮する機会になります。奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 記

日時 平成24年11月29日(木) 18:30～20:30

テーマ:大阪夢州での1000万kW発電所建設計画

- a)10月18日シンポジウムの概要報告(綾木 光弘 技術士)
- b)戦略的環境アセスメント(SEA)推進について、シンポジウム後の活動状況(山本 泰三 技術士)
- c)10月22日及び11月19日(予定)の地球環境問題研究会での検討状況(石塚 幹剛 技術士)
- d)推進体制、工程の考え方(安カ川 常孝 技術士)
- e)意見交換(進行:石丸 公生 技術士)

場所 アーバネックス備後町ビル3Fホール

地下鉄御堂筋線本町駅、1番出口から徒歩で北東へ約1分

\*1番出口を出て左(東側)へ向かい、次の交差点を左折(北へ)、左側2軒目のビル

参加費 1000円(一般の技術士会員)(環境研究会会員及び学生等は無料)

懇親会 当日は講師の方を交えて、2階レストランで懇親会を開催します。(費用は実費)

お申込み・お問い合わせ

環境研究会連絡担当: 森 さやか [ecoken24mori@gmail.com](mailto:ecoken24mori@gmail.com)

以上

# ドイツ: 政府とシーメンス社と国民

## ● 政府の行動

福島第一原発事故後、  
すぐに原発廃止を決定  
★日頃の活動の結果

## ● 国民の支持

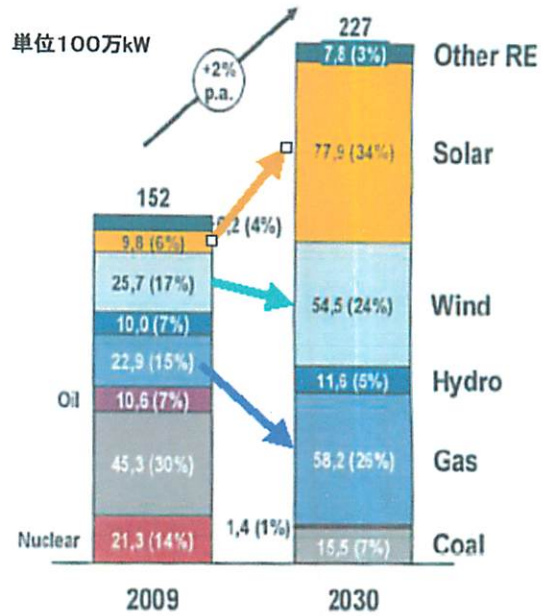
## ● シーメンス社の戦略

大手発電機メーカー  
2011.9に世界へ向け発表

## ★ ガスタービン(GCC)

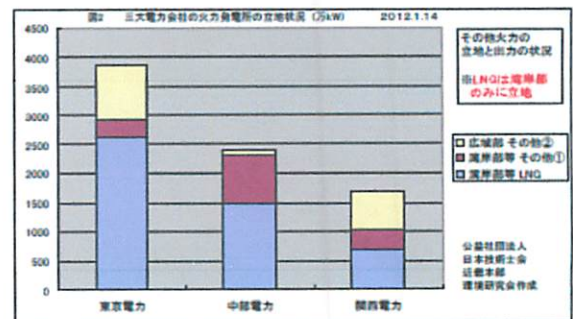
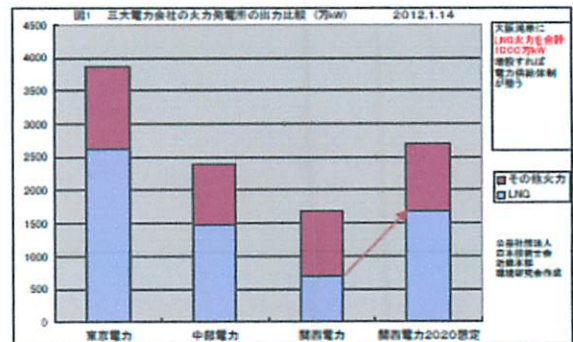
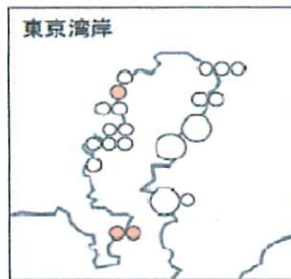
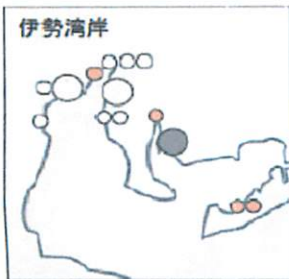
と再生可能エネルギー

設備容量の図、(電力量は同じ)



## ★ 日本の2050年の姿?

# 関西地域で考える(1月のシンポ)





# 地産地消・都市型発電システムで イノベーション、関西の復活！

大阪夢州で検討！

- ・天然ガス(LNG)
- ・ガスタービン(GCC)
- ・発電量:1000万kW  
(50万kW×2×10)
- ・経済性
- ・工程管理



## LNG火力発電所について

環境アセスメント実績(万kW)

●:新設 ■:更新

1973~LNGの輸入(関西)

- 関電南港:1990運転(60×3)
- 大阪ガス西島:1998(GCC:15)
- 大阪ガス泉北:2006  
(GCC:27.5×4)
- 関電堺港:1964石油 →LNG  
→2006(GCC:40万×5)
- 関電姫路第二:1963石油  
→LNG  
→2009(GCC:49×6)

**GCC**(ガスタービンコンバインド)

姫路第二火力 経済産業省審査書(2009.10)

②発電用燃料の種類及び年間使用量

| 項目      | 現状     | 将来     |
|---------|--------|--------|
|         | 1~6号機  | 1~6号機  |
| 使用燃料の種類 | 天然ガス   | 天然ガス   |
| 年間使用量   | 約240万t | 約240万t |
| 年間利用率   | 約63%   | 約80%   |

**省エネ:発電電力量:145.4%**

**CO<sub>2</sub>:排出原単位:68.8%**

**発電電力増加:60億kW/年**

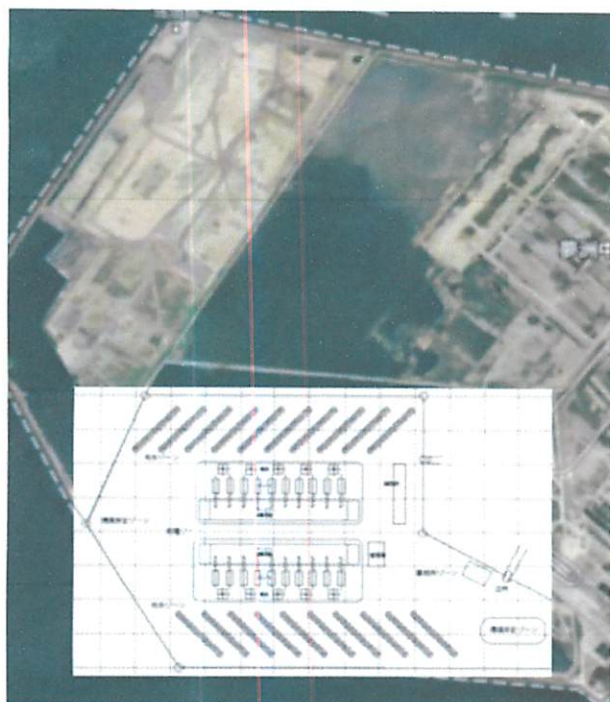
**※600億円利益(10円/kWh)**



# ガスタービンは分散設置・制御が可能

集中型(20基で1000万kW)

分散型(50万kW×2基)×10



## 誰も事実に向き合わない？

① マスコミは

その後も現在まで

② 企業(産業界)は

その後も現在まで

③ 行政は

参加し始めた？

④ 大学は

具体的な行動は？

⑤ 市民は

考える情報がない

★ リーダーシップをとるのは？

# 有効な情報発信(公開)の重要性

## ●情報の氾濫の中で

※情報量は100年で1000倍にも

## ★「技術の目利き」による情報の把握・評価

### データ(事実)で判断

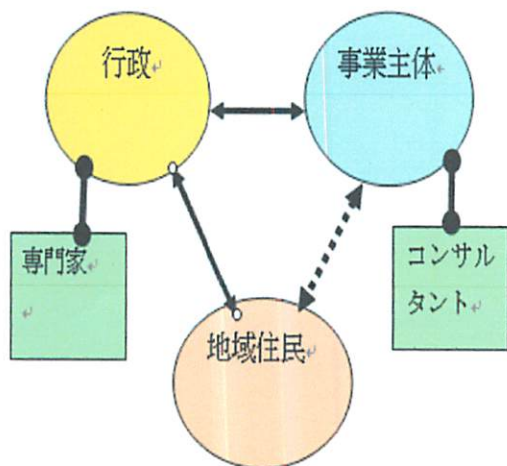
- ・実現可能性
- ・コスト(経済性)
- ・影響度(効果)と達成時期 など

→コンセプト(考え方)づくり

→具体的な提言(シンクタンク機能が重要)

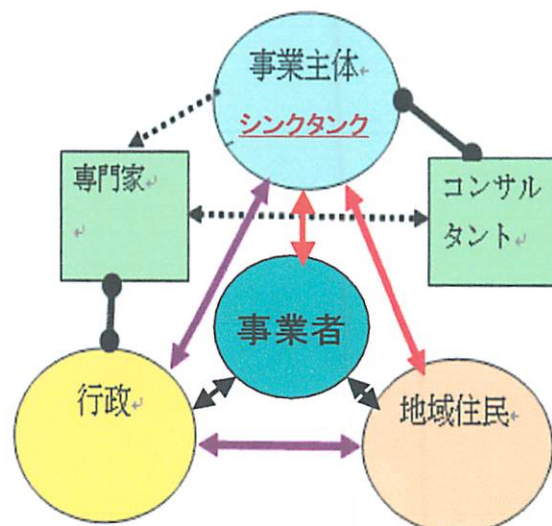
# 戦略的環境アセスメントのあり方

従来の環境アセスメント



新しい関係(協働)での推進

## ★専門性があり、独立した第三者



●「知る権利」と「学ぶ義務」の実践を!